



金沢学院で学びたい

在学生が受付や案内役で活躍
在学生は、大学、短大合
わせて六十六人が、事前準備
の展示補助に始まり、当
日は金沢駅で無料送迎バス
への誘導係、玄関での歓迎、
参加カードやジユースの配
り、受付では、資料の配布を
てきぱきとこなし、ソアーケ
内などで活躍しました。

案内係を務める学生
記念講演する石田学長



鉛筆によるデッサンで薪を描く生徒 = 6号館



模擬授業のうち、大学美術工芸学科の実技セミナーには十一人の高校生が参加し、薪を鉛筆でデッサンする指導を受けました。

人気の短大食物栄養学科では、クッキーづくりに約四十人が参加しました。卵や小麦粉を使って生地をこね、型をとつて焼き上げました。生活デザイン学科の授業では

バスは六月十八日、金沢市末町のキャンバスで行われ、保護者を含め約三百人が学科説明、キャンバスツアー、オープン授業などを体験し、学生食堂でランチや焼き立てのパンを味わつて、ひと足早く学生気分を味わいました。これまで補助的な役割が多かった在学生は、今回は受付係や案内係などとして主体的に活躍し、訪れた高校生が質問などもしやすく、親しみが持てるような印象のオープンキャンパスとなりました。

オープンキャンパスにぎわう



金沢学院大学・短期大学の石田寛人学長は六月十一日、石川県立生涯学習センターで行われた石川県民大学院大学の石川の博士養成講座開講式で記念講演

人間の自信と限界を後世へ

石田学長、県民大学校で講演

石田学長は「何を次世代に伝えるか」の演題で、チエコ大使当時に感じたヨーロッパ文化の奥深さ、歌舞伎など古典芸能の魅力などを紹介しました。そのうえで「文化は放つておいて自然に伝わるものではない。知性的な動物の人間が二十世紀初頭までに積み上げ成し遂げたもの、人間の自信、人間の限界を後世に伝えていかなければならぬ」と締めくくりました。



電話の掛け方について知識を豊富にしました。

敷地内の古窯発掘調査

金沢学院大学美術文化学部文化財学科の三、四年生

二十人は六月十三日、「考古学実習」の授業で初めて、大学敷地内に点在する奈良中期から平安前期の古窯跡の発掘調査を始めました。写真左。発掘は七月下旬

まで行われます。

金沢市末町周辺にはかつて、金沢の土器生産拠点「末古窯」があり、約二十基の遺跡が確認されています。

トランボリンの基礎体得

人が、福井卓也助教授から開脚や腰落ちなど基本的な跳び方の指導を受け、空中感覚とバランスの取り方を学びました。写真左。六月十七日、第二体育館で行われました。親子ら五十人が、福井卓也助教授から開脚や腰落ちなど基本的な跳び方の指導を受け、空中感覚とバランスの取り方を学びました。写真左。



金沢学院東高校の一年生約一百五十人は五月三十一日ないし六月七日に金沢市を訪れ、職業講話、仕事発見テスト、見学などを通じて自分に適した職業にはどんなものがあるか学びました。写真上。